

特 集

農業にチャレンジ



生み出そう。新たな担い手。

平成27年の国勢調査によると、田布施町では、農業従事者は町内で4番目に多い産業人口を占めており、町内でも主要な産業の一つとなっています。

特にお米は田布施町の『田の字』からもわかるように、町内で古くから栽培されている作物であり、近年では個人農家のほか、大豆や小麦を経営に取り入れた法人組織での栽培が盛んです。また、『いちご』や『イチジク』、『アスパラガス』などの施設園芸農業も行われており、中でも『イチジク』は県内で一番の生産量を誇っています。

一方で、農業従事者の減少や高齢化、担い手不足などの課題の深刻化が年々叫ばれているのが現状であり、田布施町も全く例外ではないのです。

しかし、農業は、人が生きていくために欠かせない仕事です。町内でも、農業に対する信念とこだわりをもって、日々汗水を流しながら、農作物と向き合っている農業従事者がたくさん

いらっしゃいます。また、生産者とは少し違った目線から、田布施町の農業を盛り上げようと頑張っている方々もいることをご存じですか？

今回の『農業特集』では、さまざまな立場から農業について、3人にお答えいただきました。

皆さんの農業のイメージと、一体どれくらい違うのでしょうか。





岸田 訓和 さん
葛岡・瓜迫農事組合法人

他産業から農業に就業して感じたことは？

『農業』のスタイルは様々。自分に合う農業スタイルを見つけてほしい。

生まれ育った環境と似ている
ところを気に入り、田布施町へ

私は、祖父母の専業農家を手伝って暮らしていたので、農業をしながら田舎で暮らすことに關しては、いいイメージしかないですね。子どものころに住んでいた福山市は、田んぼがたくさんあって、個人商店やスーパーもありました。そんなところが当時の福山市と似ていて、それで田布施町を気に入りました。

スタイル探しの旅

『農業をやりたい』という気持ち
が昔からあったんですけど、

私は専業農家さんとスタイルが違っていて思ってるんですね。

私は、農業には『専業で1つの野菜を栽培し、より良いものを作る』、『こういうのを作ってみたい』などさまざまなスタイルがあると思っています。

その中でも農業の根本的な役割は、食の安定供給をすること。とにかく安定した食を届けることによる、『食と土地を守っていくスタイル』の農業が、自分には合っているような感じがしていますね。野菜などが安くても需要があればたくさん作ればいいと思うんです。もともと緑の下力持ちになることも好きですしね。



農業をやってくれる人がいれば、もっと農業がしやすくなるのではないかなと。

最初は自分に合った農業スタイルを探るところから始め、多くのスタイルを経験した上で、『自分はこれをやってみたい！』というものを見つけることが、いいんじゃないかなと思います。

多くのことを経験できる 環境をつくりたい

ただ、農業を始めるにあたって、『農業は大変だ』とか、『売上が不安定だ』というイメージが付きまといがちで、実際のところ厳しいことは多いだろうとは思っています。ですが、私自身『食や土地を守っていくスタイル』がやりがいになっていきます。そういうスタイルの

岸田訓和さん 広島県福山市出身。
自動車関係、農機メーカーに勤められ、その後、令和2年に『葛岡・瓜迫農事組合法人』に新規就農者として就業。





ときなが すすむ
時永 進 さん

株式会社ファームランド 代表取締役



時永進さん 田布施町出身。

山口県指導農業士として、長年、田布施町で農業に取組み、新規就農者も積極的に雇用して、経営感覚を持った新たな農業を目指している。

長年の農業経験から農業を志す人に向けて

農業をするには、3つの能力が必要

農業は日本中どこでもできるが、
本当の農業を知らない人が多い

必要な能力と蓄積する方法

『農業』というのは農地がないところでは難しいですが、農地があれば日本中どこでもできるものです。畑に野菜などを植えたり、田んぼで稲を作ったりする人もいます。

しかしながら、農業はどういうものか知らない人が多いと思います。それはテレビで見たり、本で見たり、いろんな人の話を聞いたというケースがほとんどで、本当に農業を自分でやらないからではないか、と私は思います。

農業を行っていくにあたって、『ものを生産する能力』これは必須です。その次に『ものを売る営業能力』、『機械を正確に動かし、故障時に自分で直す能力』の3つの能力が必要です。

この能力を備えて、お客さまに向き合えないと、長いお付き合いや販売ができないですね。

ファームランドで使用している機械は、効率よく作業ができるよう、市販の機械を私のオリジナルで改良して使用しています。しかし、すぐに効率的な機械ができるわけではないため、作業を行いながら少しずつ改良していく、今の機械になっています。

そういった改良する技術が自分の体から抜けていかなないようにするために、1年に1回『面白い自転車』を作っています。

イチゴ狩りなどでファームランドに来られたお客さまが、『今年の自転車

はどう?』とよく話しかけてくれますよ。

新規就農希望者に会ってみたい

農業したいという人がいたら、その人に会いたいですね。ただ漠然として、アドバイスの言葉を探すのは難しいですよ。話を聞かずアドバイスをしてしまうと、無責任な言葉になってしまうかもしれないですね。話を聞いて、アドバイスをしあえるのが本当だろうと、私は思っています。

株式会社ファームランドの今後

人がやらないことを自分します。ファームランドのイチゴ狩りのシステムは、日本中どこを探しても同じシステムはないと思います。他にはないイチゴ狩りができるということは、利用者さんにとっても楽しいと思いますよ。

ファームランドは『誰もやってないことをやる』ことが多いです。そして、今後も他にはないことをやっていきたいですね。

農業者を支える直売所を目指して ～ 新たな出荷者を募集中 ～



かねつま ひさのぶ
鐘突 久伸 さん
協同組合 田布施地域交流館 マネージャー

地域交流館 & sakura-michi の魅力

『sakura-michi』は最近本当に雰囲気ですごく良くなって、今までよりちょっと客層が若くなってきたかと感じています。SNSとかを見て来られる人が多くなって、子ども連れのお客さまや高校生など客層が若くなってきたんじゃないですかね。

今までは、イベントや野菜講習会を定期的に行っていました。だからこそ、新型コロナウイルスの影響で規模を縮小せざるを得なかったり、イベントができない状況が生まれていることは、寂しいことではありますね。しかし、特売フェアを通してお客さまに販売促進で親しんでもらい、コミュニケーションを取る良い機会にはなり、『イベントのあり方』を考え直す必要があると思っています。

動画配信を使った

野菜講習会の将来展望

今までの野菜講習会は、1時間半〜2時間ぐらいかかっていました。さまざまな野菜の講習を全部まとめてやっているから、講習会の時間が結構長く

なってしまうんですね。だから、かぼちゃだけ、ほうれん草だけ、といったように、野菜ごとのポイントを5分・10分の動画にまとめたものを、組合員専用のページで公開すれば、好きな時間に見ることができるようじゃないかと考えているんです。

栽培だけではなく、低農薬とか、いろいろな機械の使い方とかもどんどん増やしていければと考えています。

新たな生産者を

生産者が高齢化で減ってきて、生産物自体の量がなく、出荷数が減っているところが困っていますね。新しい生産者になっていただける人も、現役を退き小規模で農業をする生産者が多くなっています。

新しい生産者に出荷していただきたいですし、新たに就農される若い人が増えてほしいですね。やはり、農業だけだと厳しいところがあるので、田布施町でちゃんと生活できるように農業をやりながら農業するような、経営塾みたいな就農支援があればいいと思います。

柴田 功さん 地域おこし協力隊を退任 ～これからもよろしくお願いします～

地域おこし協力隊として、平成30年10月に着任し、今年の9月末をもって任期が終了しました。兵庫県から田布施町に移住した何も分からない自分に、地域の皆さまが温かく見守り応援してくださったおかげで無事、任期を全うすることができました。本当にありがとうございました。

地域おこし協力隊の仕事を通じて、地域との連携の取り方、農業技術の習得、イベントの企画運営など多くを学ばせていただきました。



▲イチジク栽培の様子

これまでの3年間の経験を活かし、これからも地域に貢献できる仕事で田布施町に携わっていきたいと思っています。具体的には田布施町の特産作物であるイチジクの生産者になり、田布施地域交流館で運営を学ばせてもらう予定です。

引き続き、これからもよろしくお願いします。



▲起業後に整備したイチジク農園